

再々質問

2012年2月20日

白鶴酒造株式会社 様

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク

再度の質問にもかかわらず、丁寧に回答いただきありがとうございました。味の変化、品質劣化については、ガラス瓶ほどには十分ではないが、従来のPET容器の弱点を克服している点について理解いたしました。御社の回答からは真摯な姿勢を感じますが、私どもが感じる疑問が払しょくされない点がありますので、恐縮ですが再々質問をさせていただきます。

1. 「本商品は1.8L瓶の代替容器としてではなく、日本酒の市場活性化施策の一つとして」とのご回答ですが、言葉を換えれば、「1.8L瓶では日本酒の市場活性化が図れない」ということを意味しています。リユース容器の衰退が日本酒の市場を縮小させた、とする考え方が、ワンウェイ容器の拡大、リユース容器の縮小の流れを加速してきました。結果、ごみの増加、CO2の増加、自治体のごみ処理、リサイクル費用の増加をもたらしています。

しかし一方で、リユース容器を導入・拡大して市場の活性化を図ろうとしている九州の焼酎メーカーの取り組みがありますが、御社もぜひ、そうしたリユースを拡大して市場活性化を図る姿勢に転換いただけることを、切に希望いたしますが、御社のお考えをお聞かせください。

2. 「1.5L標準のワンウェイ瓶」と比較して、PET容器の方が、より環境によいとの御社のホームページの記述ですが、日本酒の代表的な容器が「1.8Lリユース瓶」ですので、「1.8Lリユース瓶」と比較いただくことが、消費者へのよりよい情報提供であるといえます。ホームページを閲覧した消費者の多くは、「1.5L標準のワンウェイ瓶」との比較であると認識していないのではないかと思います。ぜひ、「1.8Lリユース瓶」との比較に変更いただきたいと希望しますがいかがでしょうか。

3. ポイ捨て防止には消費者の協力が不可欠であることは、まったく同感です。消費者の協力を促すシステムとしてデポジット制度があります。容器表示の啓発と合わせて、よりインセンティブが働く仕組みについて、散乱しやすい容器を使ったメーカーの立場からご検討いただくよう希望します。

以上